

令和8年度全国学力・学習状況調査結果について ～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～

滝川市教育委員会
(担当：教育総務課)

1 調査の概要

- (1) 実施期日 令和8年4月20日(月)～令和8年5月7日(木)
・小学校(国語、算数)と中学校(国語、数学)は4月23日(木)に実施、その他調査については、4月20日から5月7日までの指定された日に各校で実施。
- (2) 調査の対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒
- (3) 調査の内容
①教科に関する調査(国語、算数・数学)
小学校(国語：14問、算数：16問)
中学校(国語：14問、数学：15問、英語約26問)
・英語はIRT方式による調査で、23問の公開問題のうち14問(全員が取り組む問題が9問、一部が取り組む問題が5問)、非公開問題は生徒ごとに異なる12問の計26問で構成される。加えて、「話すこと」調査では数問の非公開問題が出題される。
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- (4) 参加状況(悉皆調査)
小学校6校 中学校3校
- (5) 参加児童生徒数(下表)

小学校 第6学年	学 校	受験者数	中学校 第3学年	学 校	受験者数
	滝川第一小	27		江陵中	84
	滝川第二小	21		明苑中	143
	滝川第三小	41		開西中	27
	西小	39			
	江部乙小	3			
	東小	69			
	計	200		計	254

2 教科に関する調査の結果

全国・全道の平均正答率に対し、本市の児童生徒の平均正答率を以下のように示す。

上回っている(5%以上)

やや上回っている(3%以上 5%未満)

同程度(上位)(1%以上 3%未満)

同程度(±1%未満)

同程度(下位)(-3%より上-1%以下)

やや下回っている(-5%より上-3%以下)

下回っている(-5%以下)

なお、IRT スコアについては、1 %を5ポイントと換算して示すこととする。

例) 上回っている (25 ポイント以上)

(1) 小学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（60.9%）、全道の平均正答率（60%）と同程度（下位）である。

②【算数】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（56.4%）をやや下回り、全道の平均正答率（54%）をやや下回っている。

(2) 中学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（63.9%）、全道の平均正答率（63%）と同程度（下位）である。

②【数学】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（57.0%）、全道の平均正答率（55%）と同程度（下位）である。

③【英語】

滝川市におけるIRT スコアは、全国のIRT スコア（499）を下回り、全道のIRT スコア（490）をやや下回っている。

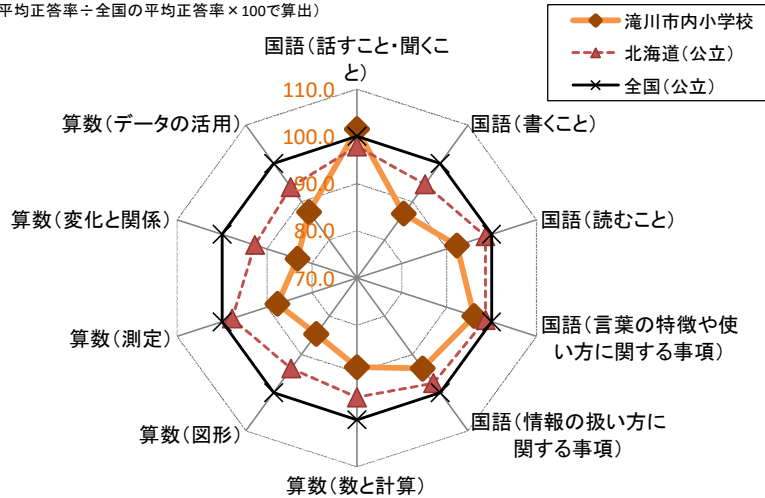
※文部科学省の発表に基づき、全国の平均正答率は小数第1位まで、全道の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。

※中学校英語は、500が平均値であるIRT スコアで示されている。

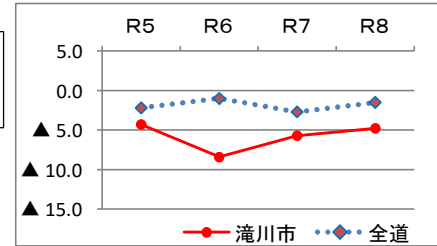
3 滝川市立小学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：6校、児童数：200名）

【教科全体の状況】

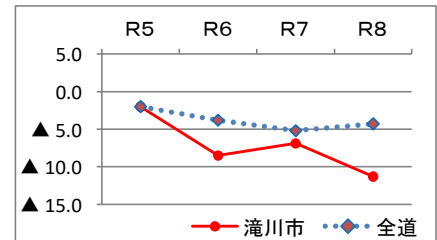
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの。
（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）



国語における平均正答率の全国との差

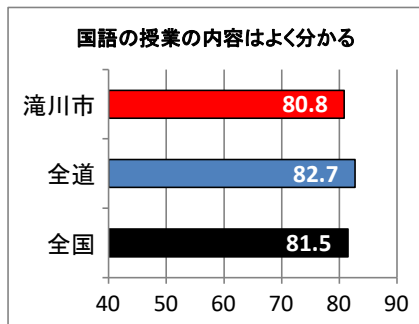
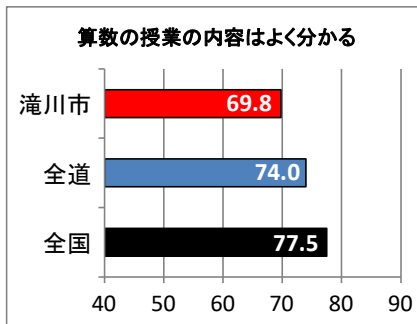
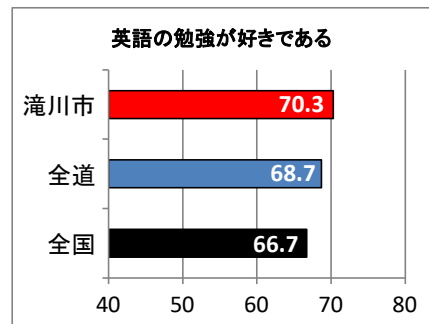
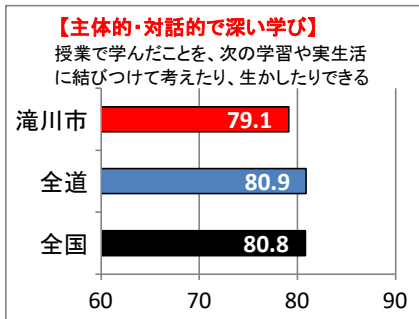
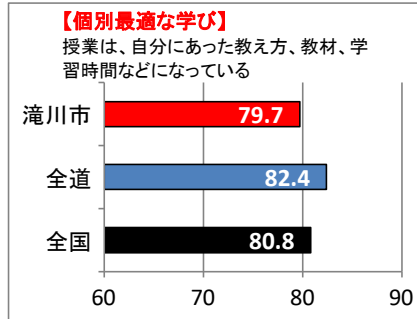
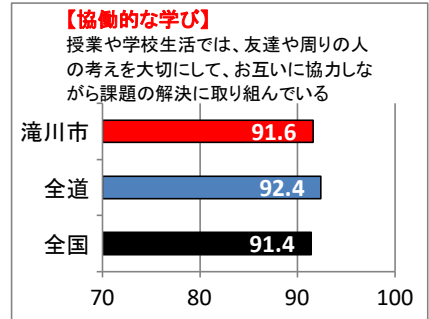


算数における平均正答率の全国との差



※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものの。(単位%)

【児童質問紙調査】※単位はすべて%



【現状と課題分析】

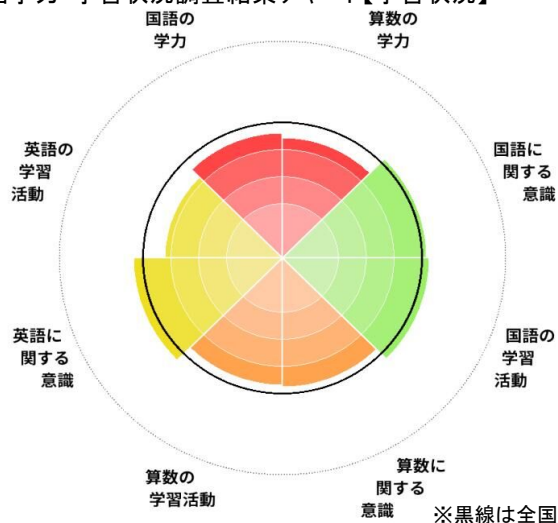
- 国語・算数ともに全道・全国の平均正答率を下回った。領域別では国語の「話すこと・聞くこと」のみが上回った。
- 国語では特に「書くこと」の正答率が低く、文章構成の整理や表現力を高める指導が必要である。
- 算数では「図形(立方体の体積の式)」や「変化と関係(割合と比較量から基準量を求める問題)」で全国平均より10%近く低く、基礎基本の定着に課題が見られる。
- 経年変化を見ると、国語は改善傾向にある一方、算数は学力の二極化も影響し低下傾向にある。
- 「授業がよく分かる」と回答した児童は国語、算数ともに全国平均を下回っている。特に算数については、二極化の影響が見られる。
- 「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実感は今全道・全国と同程度か少ない。授業内容の工夫やICT活用により学びへの主体性を高める必要がある。
- 国語・算数ともに無回答率が低く、各校の児童が積極的に問題に取り組もうとする姿勢が見られた。
- 学習面の課題は「基礎・基本の定着(既習事項の確認)」と「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」の2点である。

【具体的改善策】

- AIドリルを活用して個別最適な学びを充実させ、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図る。
- 「学びサポーター」をはじめとする外部人材を活用し、少人数指導体制を積極的に推進する。
- チーム・ティーチングや習熟度別指導を取り入れ、児童のつまづき解消と発展的な学びの充実に取り組む。
- 「家庭学習の手引き」を作成・活用し、望ましい学習習慣の定着を各家庭と連携して推進する。
- 外国語の授業においてALTを有効活用し、児童の興味・関心を一層高めるとともに小中連携の充実を図る。
- 1人1台端末等のICT機器を効果的に活用するため、教職員研修を実施し授業改善を推進する。

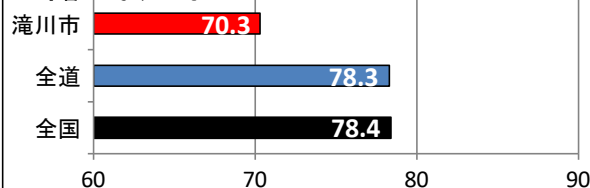
4 滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：200名）

全国学力・学習状況調査結果チャート【学習状況】



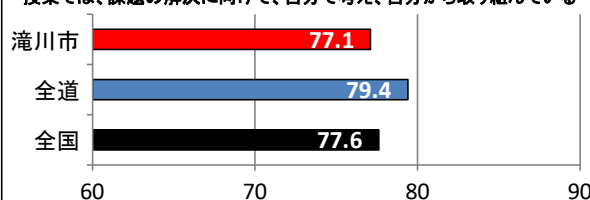
【学びの自己調整】

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている

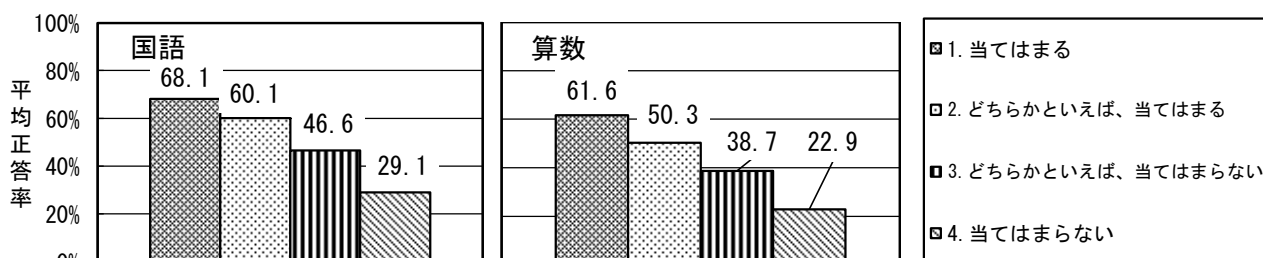


【主体的・対話的で深い学び】

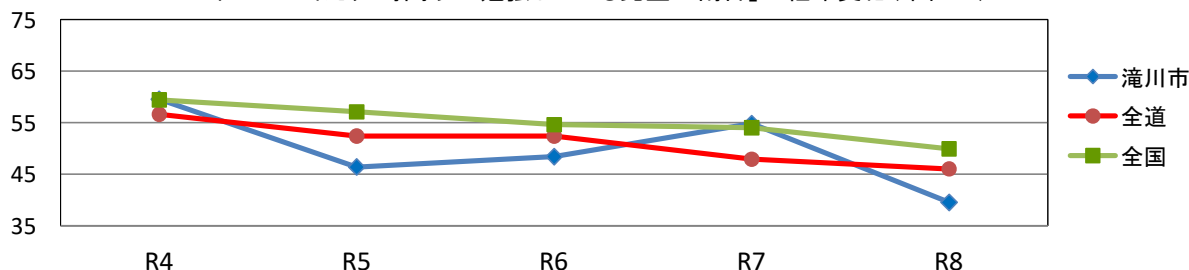
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる



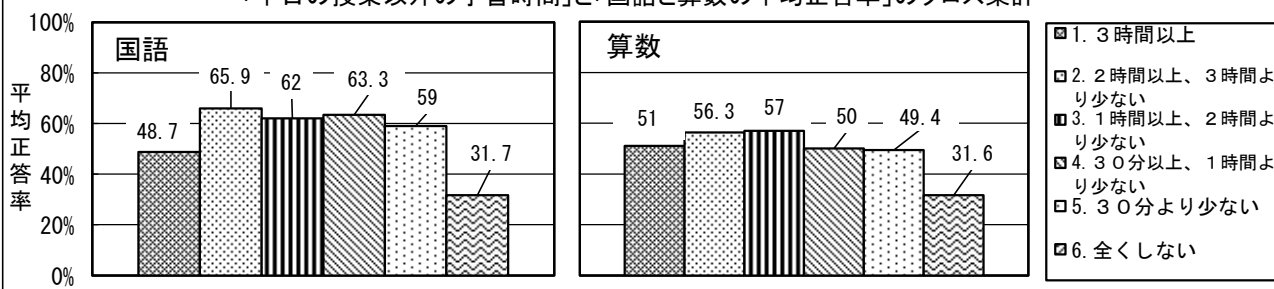
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問と「国語と算数の平均正答率」のクロス集計



「平日1日当たり1時間以上勉強している児童の割合」の経年変化(単位%)



「平日の授業以外の学習時間」と「国語と算数の平均正答率」のクロス集計



【分析及び改善策】

○児童には、学習に対する意欲があることが調査から読み取れるので、日常の授業において、「できた・わかった」という成功体験を増やす必要がある。

○「学びの自己調整」や「主体的・対話的で深い学び」の項目は全道・全国平均を下回っている。児童が学習に主体的に関われるよう、課題設定から振り返りに至る授業の流れなど、日常の授業の検証が必要である。

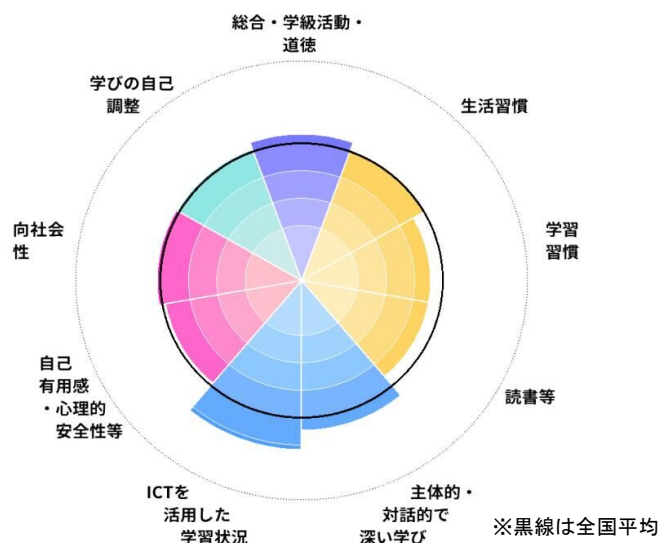
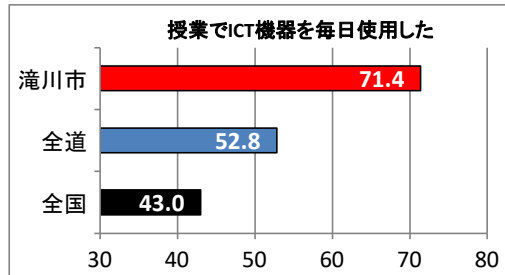
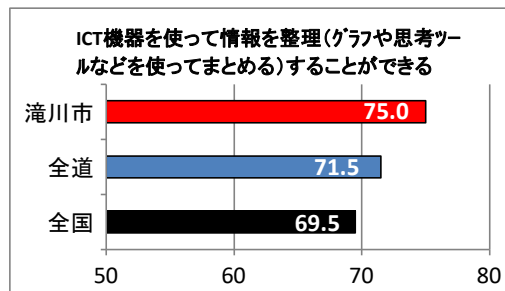
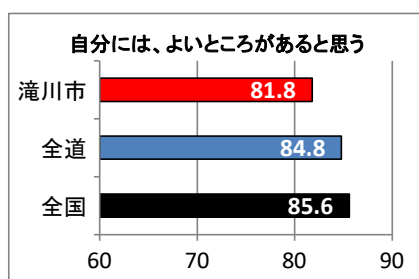
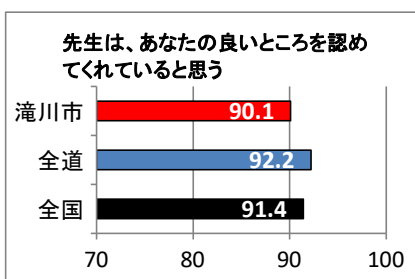
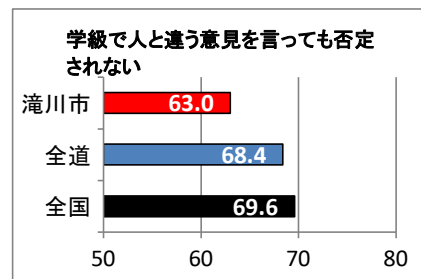
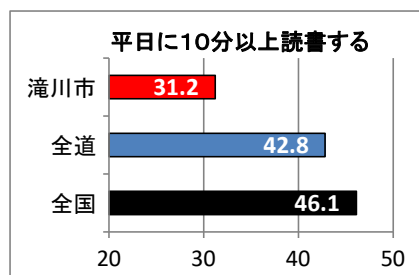
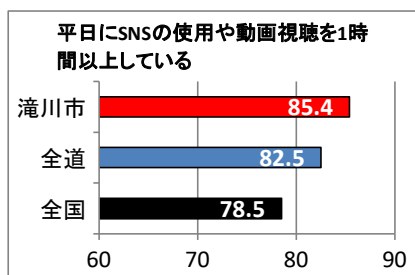
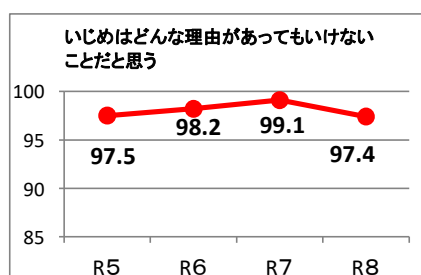
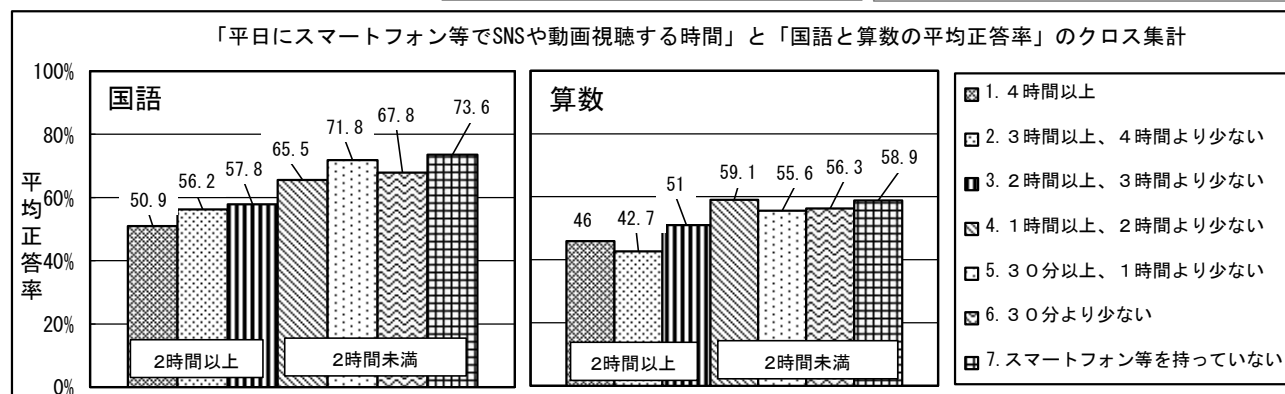
○課題意識を持って取り組む児童ほど国語・算数の正答率が高い傾向にある。引き続き、課題を自分事として捉え主体的に取り組める授業改善を推進する。

○「平日1日1時間以上勉強する」児童の割合は全道・全国平均を下回っており、基本的な学習習慣の確立が大きな課題である。

○学習時間と正答率の関係では、「全く学習しない」と「少しでも取り組む」児童間に明確な差が見られる。短時間でも日常的に学習に向かう習慣をつけるため、AIDドリル等を有効活用した家庭学習の充実努める。

5 滝川市立小学校の学習習慣・生活習慣及び改善策(学校数:6校、児童数:200名)

全国学力・学習状況調査結果チャート【学習習慣、自己有用感等】



【分析及び改善策】

○「いじめはいけなし」と回答した児童は97.4%に上り、道徳教育の充実やいじめ撲滅に向けた継続的な取組の成果が現れている。

○授業でタブレット等のICT機器を使用する児童の割合は、全国平均を28.4ポイント上回っている。自分の考えを深めたり意見交流を行ったりするツールとして有効活用されている。

○読書習慣に関しては、「10分以上読書する」児童が31.2%にとどまっており、日常的に読書習慣を身に付ける取組が重要である。

○「自分にはよいところがある」「先生は自分を認めてくれている」「学級で人と違う意見を言っても否定されない」の各設問の回答はいずれも全国平均を下回った。自己有用感や心理的安全性の向上は学習面にも好影響を与えるため、認め合い高め合う学習環境の充実に努める。

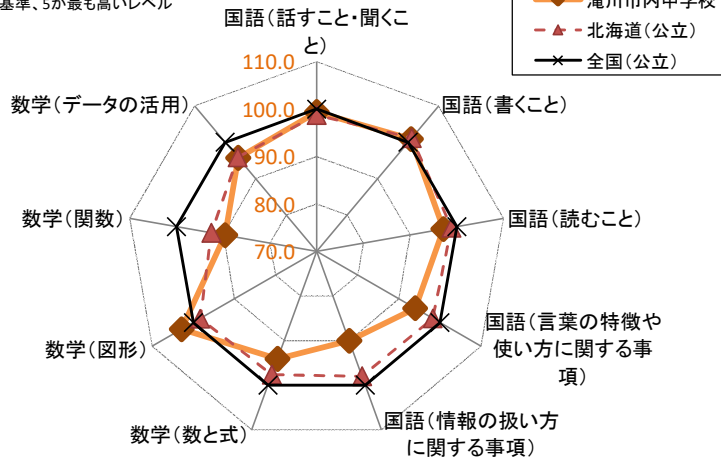
○各校で実施している「ハイパー・Q」の分析を進め、心理的安全性の高い学級づくりを推進する。

○平日のSNS使用や動画視聴が1時間以上の児童は全国・全道平均より高い。2時間以上の児童とそうでない児童の間には平均正答率に明確な差が生じており、家庭での学習時間確保が課題である。

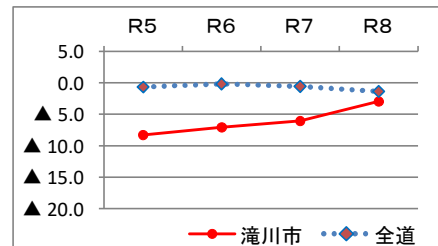
6 滝川市立中学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：3校、生徒数：254名）

【教科全体の状況】

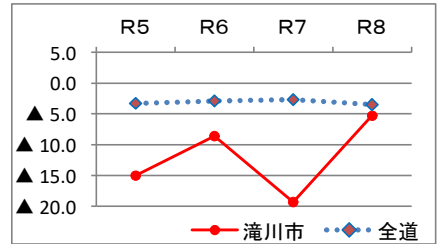
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの。
 （滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）
 中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。
 ※バンド3が基準、5が最も高いレベル



国語における平均正答率の全国との差

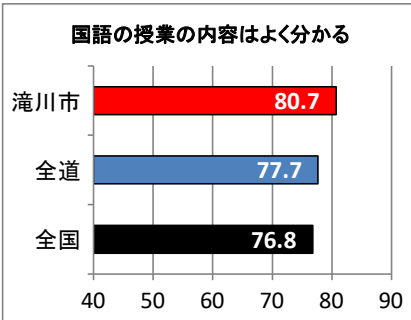
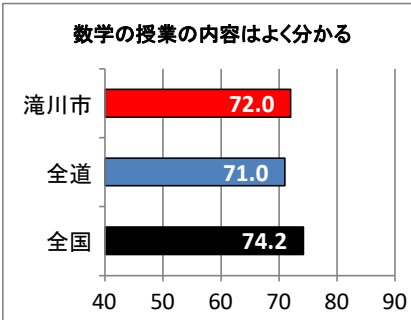
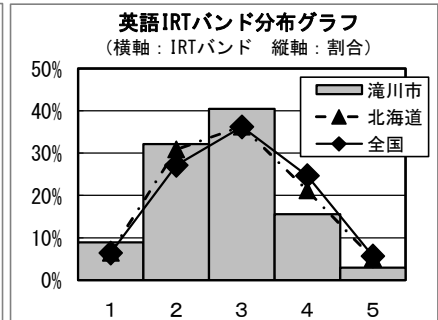
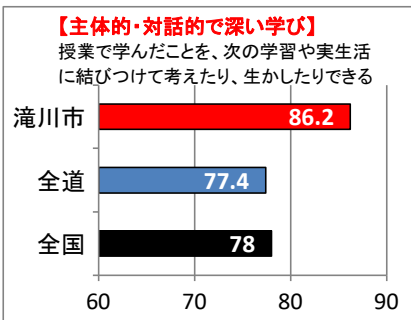
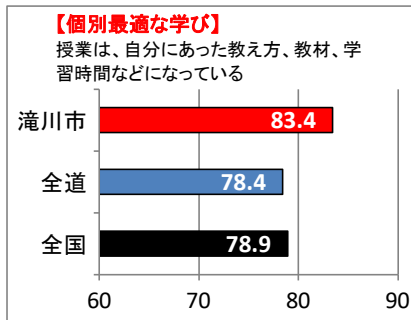
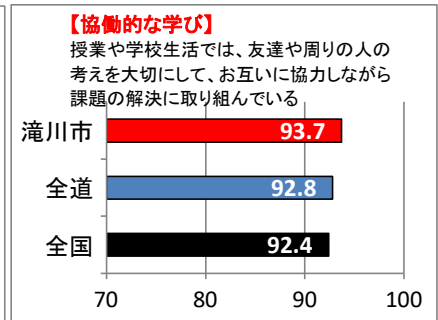


数学における平均正答率の全国との差



※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものの。(単位%)

【生徒質問紙調査】※単位はすべて%



【現状と課題分析】

○国語・数学・英語(IRTスコア)は全道・全国の平均を下回った。領域別では国語「話すこと・聞くこと」と数学「図形」のみ全国を上回った。一方で経年変化では国語が向上傾向にあり、数学も大幅に改善して全道平均と同程度まで回復した。

○国語は「書くこと」で3問中2問が全国平均を超え、構成や表現の工夫を促す授業改善の成果が現れている。一方で、単語の類別や活用、助動詞の働きなど「言葉の特徴や使い方」の領域では、5問中4問が全国平均を下回った。知識・技能の観点なので、十分に定着していないことも考えられる。

○数学は「図形」で4問中2問が全国を超えた一方、「関数」は全問で下回った。特に反比例の表から「xの値に対応するyの値を求める問題」で全国を約10ポイント下回り、基礎基本の定着について課題が見られた。

○英語は全技能で全国を下回った。IRTバンドでも基準である3やその下である2の層が多い。技能別では、「話すこと」における無回答率の高さが課題である。原因としては、生徒が会話や音声で回答するテストの形式に慣れていないことが考えられる。

○生徒の授業への理解度や個別最適・協働的な学びについては全道・全国と比較しても肯定的にとらえられている。今後も、基礎基本の定着と生徒が主体的に取り組む授業を行い、学力向上につなげる。

【具体的改善策】

○AIドリルを活用し、個別最適な学びの充実と基礎学力・家庭学習習慣の定着を図る。

○「学びサポーター」等の外部人材を活用し、少人数指導体制を推進する。

○ティーム・ティーチングや習熟度別指導を取り入れ、学習上のつまづき解消と発展的な学びの充実に取り組む。

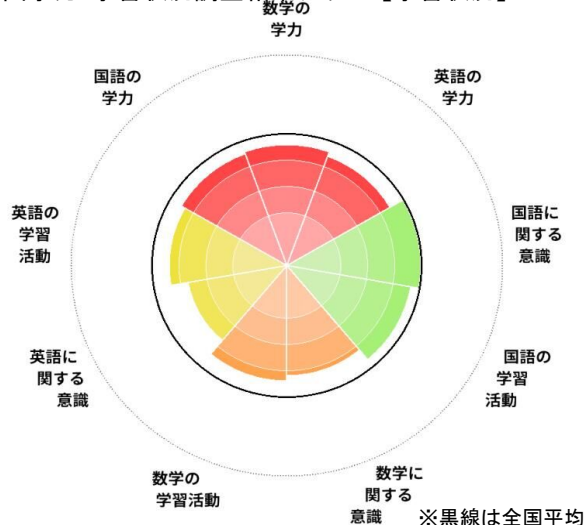
○「家庭学習の手引き」を活用し、家庭と連携した学習習慣の定着を推進する。

○英語の学力の二極化解消に向け、ALT活用による授業改善や小中連携の充実を図る。

○1人1台端末等のICT機器を効果的に活用するため、教職員研修を実施し授業改善を推進する。

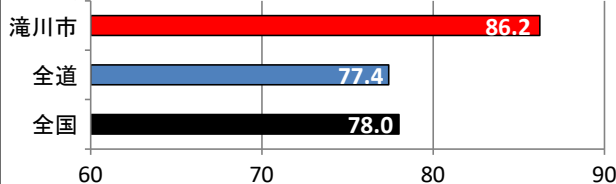
7 滝川市立中学校の学習状況及び改善策（学校数：3校、生徒数：254名）

全国学力・学習状況調査結果チャート【学習状況】



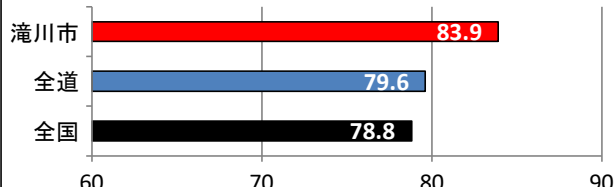
【学びの自己調整】

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている

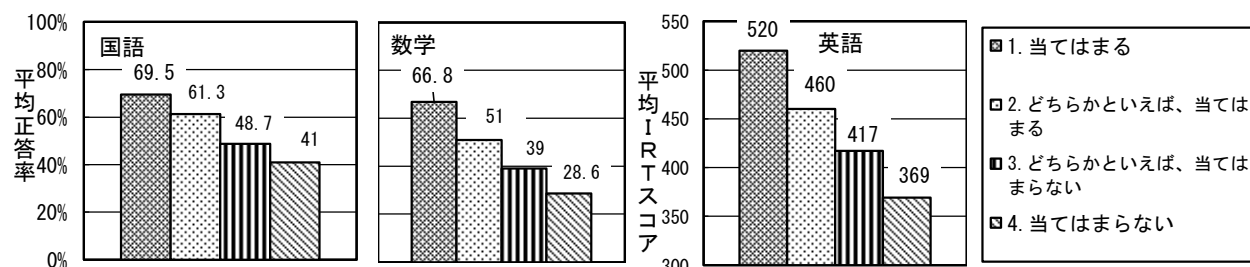


【主体的・対話的で深い学び】

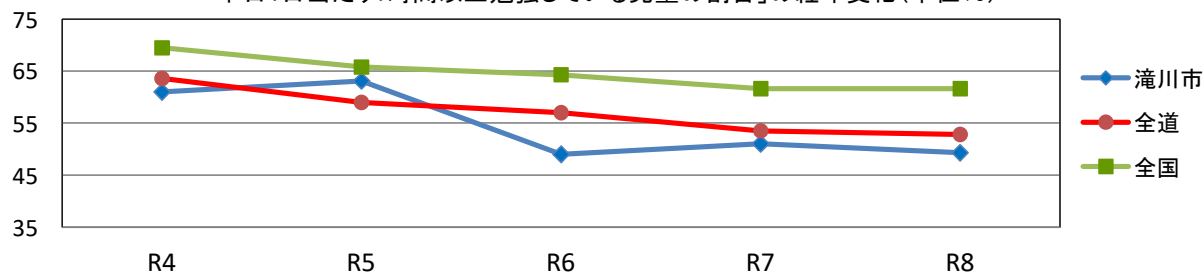
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる



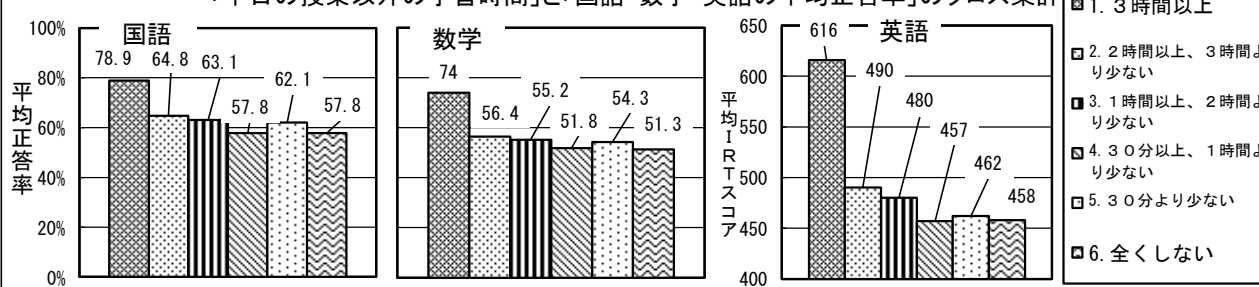
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問と「国語・数学・英語の平均正答率・IRT」のクロス集計



「平日1日当たり1時間以上勉強している児童の割合」の経年変化(単位%)



「平日の授業以外の学習時間」と「国語・数学・英語の平均正答率」のクロス集計



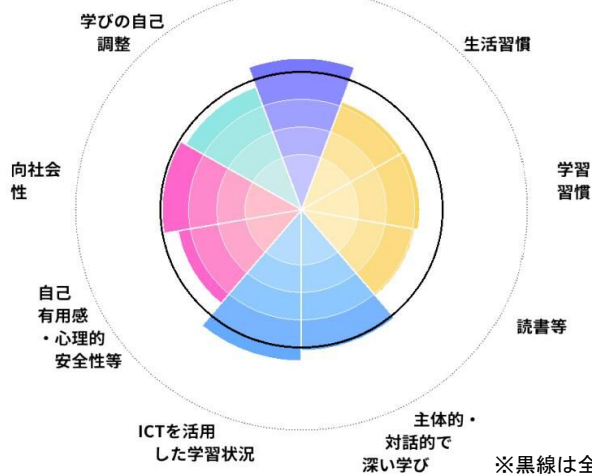
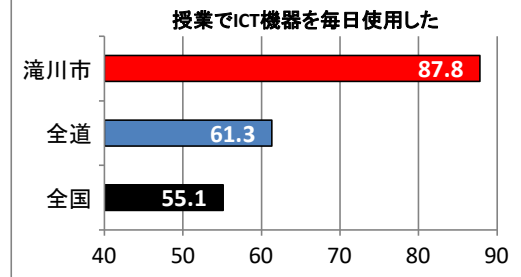
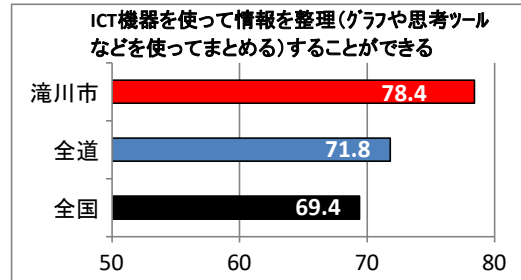
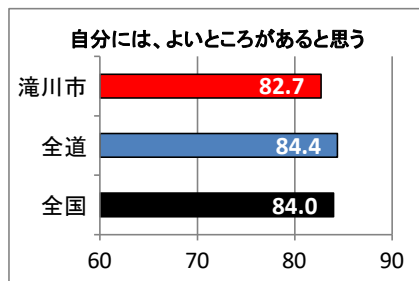
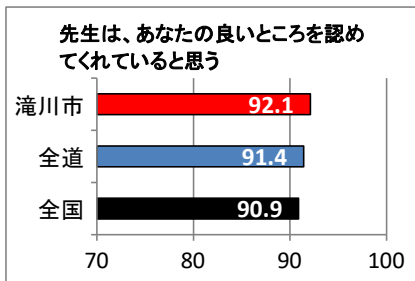
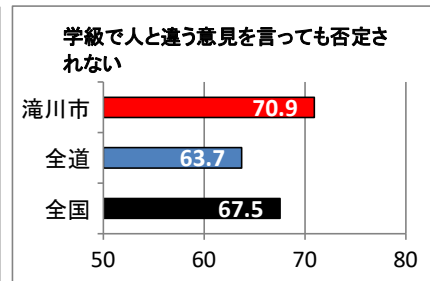
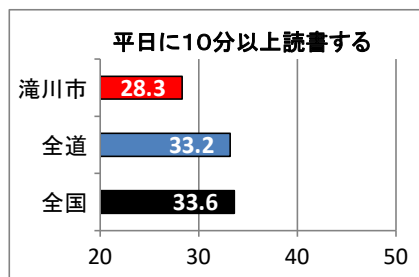
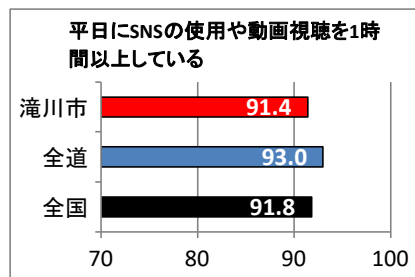
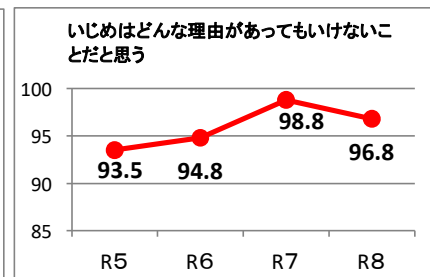
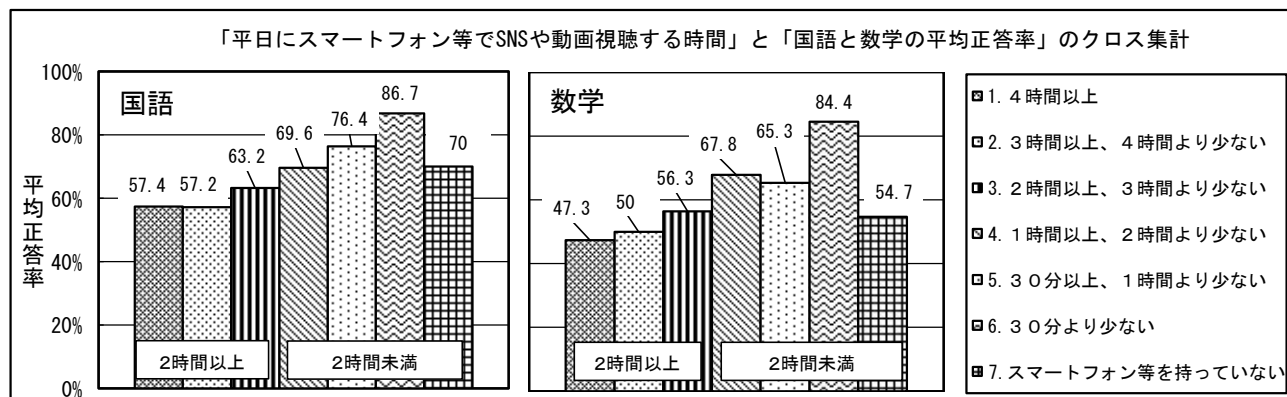
【分析及び改善策】

○「学びの自己調整」や「主体的・対話的で深い学び」に関する項目は全道・全国平均を上回り、生徒が主体的に参画する授業づくりの成果が見られている。
 ○英語に対して苦手意識を持つ生徒が多いため、意欲的に学ぶ土台となる基礎・基本の定着を図る必要がある。
 ○授業内で課題意識を持って取り組む生徒ほど各教科の正答率(英語はIRTスコア)が高く、課題を明確にした授業づくりが着実な成果につながっている。
 ○「平日1日1時間以上勉強する」生徒の割合は昨年度を下回り、近年50%前後で推移している。家庭学習への意欲を高める働きかけが必要である。
 ○1日あたりの学習時間と学力には、「1時間以上学習する生徒」と「そうでない生徒」の間に明確な差が見られる。AIDリル等を活用した家庭学習の充実など、生徒の状況に応じた取組を推進する。

8 滝川市立中学校の学習状況及び改善策（学校数：3校、生徒数：254名）

全国学力・学習状況調査結果チャート【学習習慣、自己有用感等】

総合・学級活動・
道徳



【分析及び改善策】

○「いじめはいけない」と回答した生徒の割合は高い水準を維持しており、道徳教育の充実やいじめ撲滅に向けた取組の成果が現れている。

○授業でICT機器を使用する生徒の割合は、全国平均を32.7ポイント上回っている。思考の深化や意見交流のツールとして有効活用されている。

○読書習慣に関しては、「10分以上読書する」生徒が30%を下回っており、読書の意義や楽しさを伝える取組が重要である。

○「自分にはよいところがある」の回答は全国平均を下回ったものの、「先生は自分を認めてくれている」「学級で人と違う意見を言っても否定されない」の回答は全国平均を上回った。中学校においては、自己有用感や心理的安全性が高いことが認められる。このことは、学習面にも好影響を与えるため、引き続き、互いを認め合い高め合う学習環境の充実を進める。

○各校で実施している「ハイパーQU」の分析を進め、心理的安全性の高い学級づくりを推進する。

○SNS使用や動画視聴が2時間以上の生徒は、小学校同様に平均正答率との明確な差が生じており、家庭での学習時間確保が重要である。